

皆で話し合おう 葬儀の風習2

教学研修会

和歌山宗務支所自布団
平成23年1月25日開催

研修概要

- 葬儀の風習を学ぶ機会が少なく、本意を理解しないで省略していることが多い
- 現在の葬儀は葬儀社の言いなり
- 時代が変わったからと風習を無くして良いか
- 風習に教えが説かれていることも多く、先人は、現在人よりも五感が発達していて自然の真理を説く方便として、風習や習俗が伝わってきたとも考えられる
- 美里の風習を中心に話し合しましょう

研修概要

- 葬儀の形骸化と無縁社会
核家族葬は営んではいけない
村八分 の二分とは？
- 家族とは、地域住民をさす
姓は明治以降に日本国民に有された
- 成仏させているか
死の故郷へ帰るいのち・無常のいのち
繋がっているいのち・生かされているいのち
を伝え、遺族の心のケアを行い、心を育む
ことも葬儀ではないでしょうか

枕飾り

今回は
臨終から枕飾り
枕経まで
を研修しました



決事・行い事

▶ 喪主を決める

喪主は、故人に変わって家督相続する事の披露
ご子息が居られる場合は、連れ合いではなく
息子を喪主にする（連れ合いは見送らない）

▶ 葬儀の日取りや葬祭場等を決める

▶ 死亡届の提出・遺影の作成

▶ 近隣者への連絡・・・等

行い事は、一人では行ってはいけない
一人で行う場合は石を懐中する

逆さ水

水に湯を注ぐ事は迷信？
滞留と循環



作法

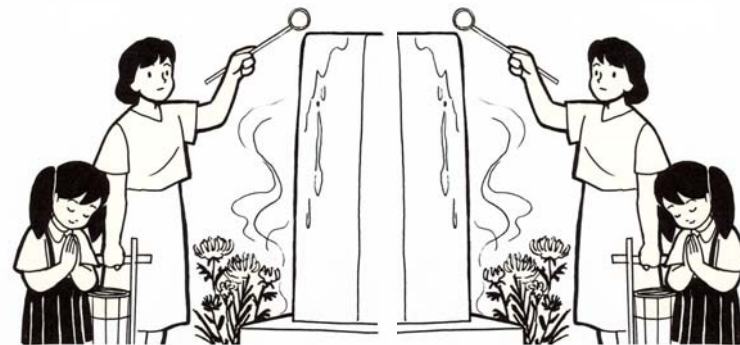
『右佛 左我とぞ 合わす手の
声ぞゆかしき 南無の一声』

イスラム教・ヒンズー教も右手が上



逆手

『左手は不浄の手とされ
左手では水を供えない
掌を返して水を手向けない』



湯 灌

逆手で 逆さ水を使い
足下から拭き清める
水は日陰に流す



死化粧

全ての穴を詰める
髪や髭を剃るときは大根
の汁を塗る
頬に含み綿を施す

現在は納棺師に依頼する
こともある

※ 紫の経帷子が流行して
いるので注意！



おくりびと

宗教が描かれていない



死装束

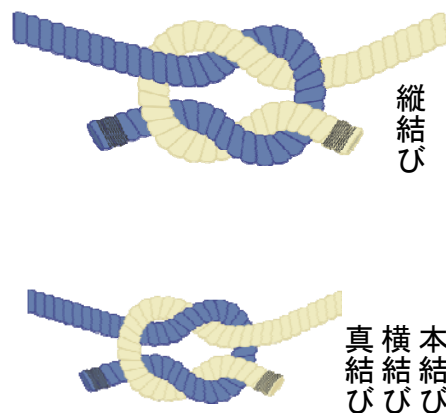
昔は、経帷子等は
近親者が縫った
はさみ・刃物は使
わず裂いて裁つ
糸は結び玉を作ら
ない、返し針もしな
い
物差を使わない
妊婦は携わらない



縦結び

経帷子や手甲・脚絆等は縦結びにする

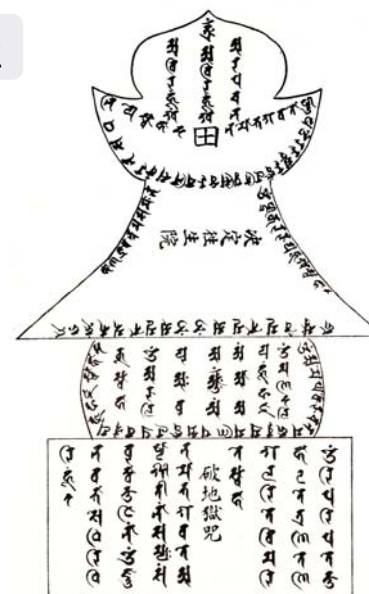
縦結びは本結びと比べて強度が低くほどけやすい
そのため縦結びは本結びと比べると使われる機会は少ないが、一度結んだあと再度2つの端を引いて締めつけることができるため、手術の際の結紮などでは用いられることがある



えいふ

曳覆高野秘密曼荼羅

高野聖が売り歩いた
経帷子として死人を包む
または、棺に納める



頭陀袋

何を入れますか

六文銭
血脈
握飯
五穀
三衣

僧伽梨衣 (そうぎやう) (大衣・九条)
鬱多羅僧衣 (うたらそう) (上衣・七条)
安陀会衣 (あんだえ) (中衣・五条)

紙に 明書



剃 髪

剃髪の手順は、男女で異なる
土葬の時は、①を先祖墓へ ②を高野山へ
納骨した

①右 ③中 ②左



②右 ③中 ①左



龕と棺



棺蓋書十九布字也
神胸神衣係是之氣衣衣
出耳才衣之衣之衣衣衣
棺底才棺結目製



三龍廻可書種子麦
龍カン 右飛 前カキ
後載 左飛
棺カフ 頭方カキ
跡方カキ 右方 光明真言
左方 隨求小咒

龕桶
龕箱
龕棺



輿



棺



入 棺

棺の底に ㊦ を書き、土砂を入れ、敷曼茶羅を敷く、密を敷く、お香(線香)を撒く
茶葉を敷く、遺体を収める
古来は遺体の上に曳覆曼茶羅を掛けた

入棺作法は何時行う？

納棺時、遺体の左脇下
関節に土砂を塗り、光明
真言を称え関節を曲げた

棺と柩の違いは？



祭壇

誰を祭るのか？



祭壇

十三仙

不動明王

弘法大師



御精進供

御本尊様へ供物

- 通夜の前
- 告別式の前
- 後飾り祭壇
三度供える



御精進供

御本尊様へ供物

- 山・地・海の精進物を供える
- 米飯を供える？
- 供える場所は
- 美里は九重碗を使う



御霊供膳

死者への供物

- 通夜の前
- 告別式の前
- 後飾り祭壇
三度供える



祭壇



野袈裟と修多羅

柩の上には守り刀は
置かない



修多羅

どちらが表？



通夜

通夜にお参りしますか？
何を称しますか・衣帯は？



夜伽

- 線香・ろうソクは絶やさない
- 熱いお茶を供える
雨垂れ落ちが、常にお茶が
流れている位に供える
お茶は縁から庭に溢す
- 写経して、冥福を祈る



写経

通夜に写経を勧める



歳を数える

- 享年「天から享(う)けた年数」
行年「娑婆で修行した年数」、「行(時が進むの意味)の年数」
- 満年齢?・ 数え歳?
「年齢のとなえ方に関する法律 (昭和25年1月1日施行)」
- 昭和20年8月15日生まれの方が
今日、亡くなられた
享年67歳(数え年)
では、昭和20年1月10日生まれの方は
享年??歳 (正月・節分・旧正月を竟とする?)

葬儀当日の喪家での支度

- 六角塔婆
 - 七本塔婆
 - 四本幡
 - 天蓋
 - 笠杖
 - 竹筒
 - 散杖
- 等々

昔は祭壇の前で筆を持て
と老僧に云われた

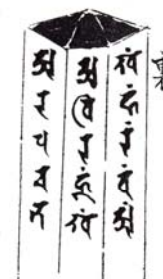
六角塔婆

- 頭部を墨で塗る
- 何時どの様に祭りますか
土葬の場合

土中の柩の上に
立てて、土を埋める
度に引き上げ、埋
葬地の中央に祭る

火葬の場合

石碑の横に立てる?



七本塔婆

初七日
 二七日
 三七日
 四七日
 五七日
 六七日
 七七日
 種子 齊 不 成 不 成 不 成 不 成



四本幡

- 叔父・叔母・従兄弟が持つ
- 額天冠 不 成 不 成



行 燈

- 母方の従兄弟が持つ
- 額天冠 不 成
- 父方の従兄弟が持つ
- 額天冠 不 成



天 蓋

- 娘婿が持つ
- 額天冠 不 成



北 西 南 東
 不 成 不 成 不 成
 迷 何 悟 本
 故 所 故 來
 三 有 十 無
 界 南 方 東
 域 北 空 西



天蓋昭藏九尊種子

弁 当

- 藁を左縄に緋う
- おにぎり・梅干・味噌
(塩)
- 弁当箱の上を
サラシで覆う
- 高野山では外居と云う
- 喪主の妻が持つ



笠と杖

- 杖は竹で長さ3尺
種子 **カ** **ス** を六字書く
棺に入れる？
墓に立てる
竹の先を手元に？
- 笠に敷曼荼羅を書く



敷曼荼羅圖云
種子 **カ** **ス** を六字書く
棺に入れる？
墓に立てる
竹の先を手元に？

花 筒

- 昨年生えた真竹で作る
- 一対は、墓地に
一対は、後飾り祭壇に
- 墓地の花筒は木組みで
足を付ける
- 祭壇用は、竹を割り開く
刃物は対角線に跨いで
割ってはいけない



仏供施

- さらし布一反を奉書紙
に包み祭壇に供える
- お寺への御供え
- 死者からの布施で
昔は、枅柎(おうこ)巻き
等にも使った



散華・散銭

- 散華の花は、色紙を細長く折って蓮花の花弁の形に切る
- 散銭は、3333円か5555円等の奇数とする
五円を拾うと勝負事に勝と云われている



散 杖

- 南に向いて伸びた梅の若枝(気條・ズワエ)
- 長さ、1肘間
- 先を8つ、本を4つに切る
- 先より1寸5分隔て二箇所八刀あて八葉蓮花とする
- 皮を取り除くか？
- 皮は叩いて剥く



骨 壺

- 骨箱の底に阿弥陀小呪
- 蓋に内に九尊の種子
- 蓋の表に決定往生の呪



輿



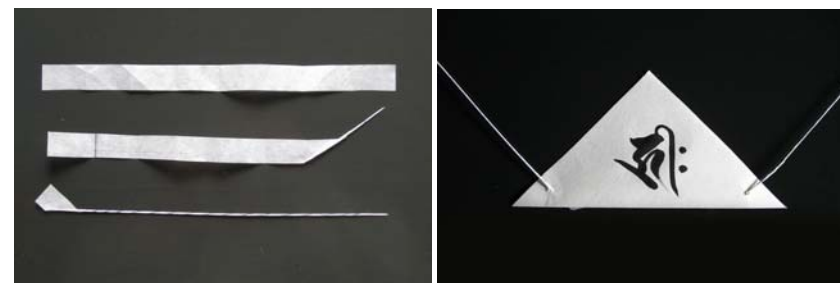
枋 枋

- 長さ2間
- 竹の本を死者の頭の方に
- 担い手は、外孫と内孫
- 額天冠 



額天冠

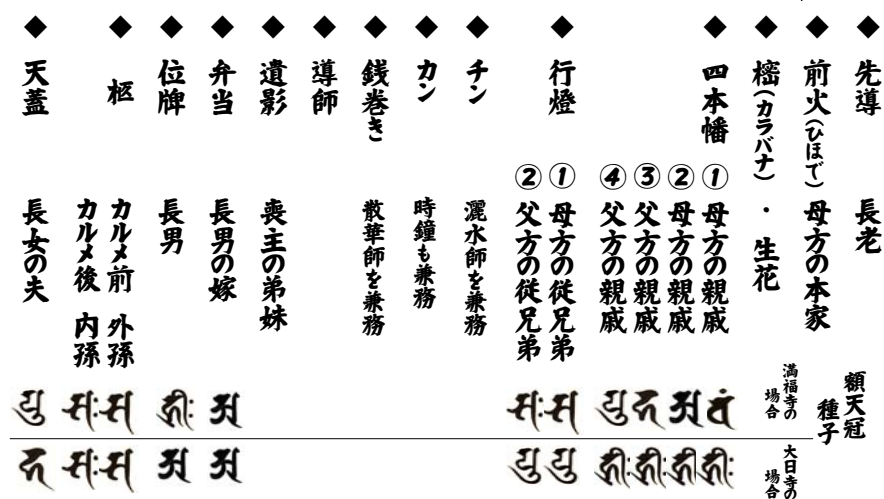
- 角帽子(すみぼうし)・紙烏帽子(かみえぼし)とも云う
- 天冠は宝冠・内裏雛の女雛などがつける冠の事
- こより(より紐)を通して、額に付ける
こよりは罫紙を利用するとよい



役者額天冠

故人が父で、喪主が長男の場合

進行方向 ←



墓所鳥居

- 外(入口) ・ 等覺門
(銀紙)
- 内(奥) ・ 妙覺門
(金紙)
- 外の鳥居と内の鳥居の中
間の右側に六地藏を祭る
- 鳥居は竹を割り合わせ
麻布を巻いて作る
「竹は末から、木は本から割る」



前 火

- 藁を3cmくらいに束ね本をさらしで巻く
- 松明を作る処もある
- 母方の本家が持つ
- 近年は、手伝い人が庭で焚く場合が多い



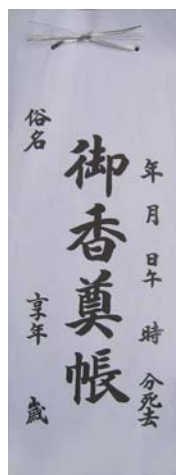
茶 碗

- 故人が食していた茶碗を出棺時に割る
- 何処で割りますか？
- 昔は婚礼の時も茶碗を割った



香 奠 帖

近年横書きの香奠帖が多くなったが
古来は縦書きが主流
紙は輪になる方を上にする事



調え物

- 色紙(葬儀用)
- 半紙
- 障子紙(四本幡用)
- さらし一反
- 散銭(3333円・5555円)
- 五円玉(6個)
- 供物(果物)
- 梅の気條
- 櫛
- 細竹 7本(5尺8寸)
幡・天蓋・行燈
- 枅柎(おうこ)(2間物)
- 六地藏の灯明用割竹
- 門
- 花筒・線香立
- 藁
- 古い鎌
- こより(50本)

出 棺

- 出棺時、石で龕の蓋に釘を打つ
- 最後の釘を打つとき49と言う
- 畳の上で草鞋を履いて担ぎ、縁から出る
- 頭から出る・足から？



カルメ

- 草鞋を畳の上で履き
- 縁から出る
- 担い手は、外孫と内孫・甥
- 額天冠 升 升
- 庭で3回廻る



行列1



行列2



掃き出し

- 出棺後、座敷を掃き清める
- 縁から外へ掃く
- 後祓いとも云い、邪気を祓う
- 亡者が戻らない
- 昔は、掃出役が有った



水を手向ける

故人が着ていた寝間着を
家の北側に
襟を北向きに干し
杓で常に水を
手向ける

何時から
何時まで行う？
供養を終えた着物は？



手伝人の忌明け

出棺をしてから、
一臼の餅を撞き、49個の小餅
と笠餅で、忌明け餅を作り、
手伝い人の忌明けをする
遺族の忌明けは49日に行う

一升樹・大根・もろふた・塩等

習俗

- 普段餅を撞くときは
小餅は数えて丸めない
必ず2臼以上の餅を撞く
- 真新しい履物は、一度土間に
下ろしてから履く
- 夜は爪を切らない



納骨袋

納骨袋を作り方

白のサラシで、巾25～30cm の袋を縫う
刃物は使わないと言われている為、手で裂く

糸は結びを作らない。返し縫いもしない
糸が抜けないように、糸の端を3cm程度
長く残す

巾着袋の様に、袋縫いにして口が括れる
ようにし、紐は一本でサラシで作る

